

小板井屋敷遺跡 3

—福岡県小郡市小板井所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第264集

2012

小郡市教育委員会

小板井屋敷遺跡 3

—福岡県小郡市小板井所在遺跡の調査報告—

小郡市文化財調査報告書第264集

2012

小郡市教育委員会

<序 文>

小郡市は、北部における宅地開発や北東・中南部における工業団地の開発が相次いで行われ、現在福岡・久留米両市のベッドタウンとして日々発展を続けています。これに伴い、交通網の整備も着々と進捗しつつあります。

今回ここに報告します「小板井屋敷遺跡3」は、個人住宅建設に先だって小郡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書です。

遺跡は、三国丘陵から伸びる洪積台地の縁辺部に築かれており、近年盛んに開発が行われている小板井区に位置します。今回の調査では、区画溝と考えられるような大溝を中世と近世の各時期において確認しており、これらの遺構の中から大量の土器を検出しました。今回得られた成果が、小郡市の歴史を復元する一助となれば幸いです。

最後になりましたが、地権者の豊嶋盛一さん、調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に深く感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 24 年 3 月 31 日

小郡市教育委員会

教育長 清武 輝

<例 言>

- 1、本書は、小郡市小板井地内における個人住宅建築（宅地造成とは異なる）に伴って、小郡市教育委員会が平成 22 年度に発掘調査を行った小板井屋敷遺跡3の埋蔵文化財発掘調査の記録である。発掘調査は、平成 22 年度国庫補助事業として実施した。
- 2、整理作業は、平成 23 年度国庫補助事業として実施した。
- 3、遺構の実測は杉本岳史・西江幸子・阿南翔悟が実施し、遺構の写真撮影は西江が実施した。
- 4、遺物の復元・実測・製図には、西江のほかには衛藤知嘉子、佐々木智子、原野照子、井上千代美、永倉さゆみ、長野智恵子、柳美保幸、宮崎美穂子ら諸氏に多大なる協力を得た。また、遺物の写真撮影は（有）文化財写真工房に委託した。
- 5、遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第Ⅱ系（世界測地系）に則している。
- 6、本書で用いた標高は、東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
- 7、土器実測図のうち中軸線の左右に白抜きのあるものは、口径の残存が1/6以下のもの、あるいは、口径の推定が困難なものである。
- 8、遺物・実測図・写真は小郡市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
- 9、本書の執筆・編集は西江が担当した。

本文目次

第1章 調査の経過と組織	1
1. 調査の経緯	
2. 調査の経過	
3. 調査の体制	
第2章 位置と環境	2
第3章 遺跡の概要	6
第4章 遺構と遺物	6
1. 溝	
2. 土坑	
3. ビット	
第5章 まとめ	20
1. 小坂井屋敷遺跡3の遺構の時期とその変遷について	
2. 小坂井屋敷遺跡3の周辺地域における中世集落の広がり	
出土遺物観察表	25

挿図目次

第1図 小坂井屋敷遺跡3周辺遺跡分布図 (S=1/25,000)	2
第2図 小坂井屋敷遺跡3調査地位置図 (S=1/2,500)	3
第3図 小坂井屋敷遺跡3全体図 (S=1/40)	4・5
第4図 2号溝A-A' 土層断面実測図 (S=1/40)	4・5
第5図 1・5号溝実測図 (S=1/40)	7
第6図 1・5号溝実測図 (S=1/40)	8
第7図 1号溝上層出土遺物実測図 (S=1/4)	9
第8図 1号溝下層出土遺物実測図 (1~8: S=1/4, 9・10: S=1/2)	10
第9図 2号溝実測図 (S=1/40)	12
第10図 2号溝出土遺物実測図 (S=1/4)	13
第11図 2号溝B-B' 土層周辺出土遺物実測図 (S=1/4)	13
第12図 3・4号溝実測図 (S=1/40)	14
第13図 3号溝出土遺物実測図 (S=1/4)	15
第14図 4号溝出土遺物実測図 (1~5・7~10: S=1/4, 6: S=1/1)	15
第15図 5号溝出土遺物実測図 (S=1/4)	15
第16図 1・2・3・4・5・6号土坑、ビット実測図 (S=1/40)	18
第17図 1号土坑出土遺物実測図 (1~4: S=1/4, 5: S=1/1)	19
第18図 3号土坑出土遺物実測図 (S=1/4)	19
第19図 小坂井屋敷遺跡3遺構変遷図	20
第20図 中世の遺跡分布図 (S=1/50,000)	21
第21図 遺跡別遺物出土量比	22
第22図 各遺跡の遺構別遺物出土量比	23

表目次

表1 各遺跡の遺構別遺物の出土数	23
出土遺物観察表	25

図版目次

- 図版1 ①調査区全景（南側から）
②1号溝A-A' ベルト土層断面（北側から）
③1号溝B-B' ベルト土層断面（北側から）
- 図版2 ①1号溝C-C' ベルト土層断面（北側から）
②1号溝染付皿出土状況（南側から）
③1号溝染付皿出土状況 up（南側から）
④1号溝簀出土状況（北側から）
⑤1号溝簀出土状況 up（北側から）
⑥1号溝全景（南側から）
⑦5号溝土層断面（北側から）
- 図版3 ①2号溝A-A' ベルト土層断面（北側から）
②2号溝B-B' ベルト土層断面（北側から）
③2号溝C-C' ベルト土層断面（北側から）
④2号溝遺物出土状況（西側から）
⑤2号溝遺物出土状況 up（西側から）
⑥2号溝全景（北側から）
⑦3号溝A-A' ベルト土層断面（南側から）
- 図版4 ①3号溝B-B' ベルト土層断面（北側から）
②3号溝全景（南側から）
③4号溝A-A' ベルト土層断面（東側から）
④4号溝B-B' ベルト土層断面（西側から）
⑤4号溝全景（東側から）
⑥1号土坑東西ベルト土層断面（北側から）
⑦1号土坑南北ベルト土層断面（西側から）
- 図版5 ①1号土坑全景（西側から）
②2号土坑土層断面（南側から）
③2号土坑全景（北側から）
④3号土坑土層断面（北側から）
⑤3号土坑全景（北側から）
⑥4・5・6号土坑全景（西側から）
⑦ピット土層断面（南側から）
⑧ピット全景（南側から）
- 図版6 1号溝上層出土遺物
- 図版7 1号溝上層・下層出土遺物
- 図版8 1号溝下層、2号溝出土遺物
- 図版9 2号溝、2号溝B-B' ベルト周辺出土遺物
- 図版10 2号溝B-B' ベルト周辺、3・4号溝出土遺物
- 図版11 5号溝、1・2号土坑出土遺物

第1章 調査の経過と組織

1. 調査の経緯

小坂井屋敷遺跡3の発掘調査は、小郡市小坂井13-5における個人住宅建設に先立ち、地権者より平成22年2月12日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号9079）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて平成22年2月16日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下約70cmの深さで遺構が確認されたため、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。協議の結果、敷地のうち住宅建設部分の54.7㎡について発掘調査を実施することとなった。

2. 調査の経過

発掘調査は平成22年4月8日から同年5月14日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

- 4月 8日 調査対象地の仮囲いを設置。重機による表土剥ぎ開始。
- 4月 9日 発掘道具の搬入。
- 4月 13日 発掘作業員を投入し、遺構掘削開始。
- 4月 30日 調査区全景写真撮影。
- 5月 7日 遺構実測終了。
- 5月 11日 重機による埋め戻し開始。発掘道具の搬出。
- 5月 14日 調査完了。

3. 調査の体制

小坂井屋敷遺跡3の調査の体制は、以下のとおりである。

〔平成22年度〕

小郡市教育委員会

教育長	清武 輝
教育部長	河原寿一郎
文化財課長	田籠千代太
係長	片岡 宏二
技師	杉本 岳史（調査担当）
技師	西江 幸子（調査担当）

〔平成23年度〕

小郡市教育委員会

教育長	清武 輝
教育部長	吉浦大志博
文化財課長	片岡 宏二
係長	柏原 孝俊
技師	西江 幸子（整理担当）

〔発掘作業従事者〕

阿南翔悟（福岡大学学生）、草場誠子、田中賢二、土井久江、松田徳代、山本睦子（敬称略）

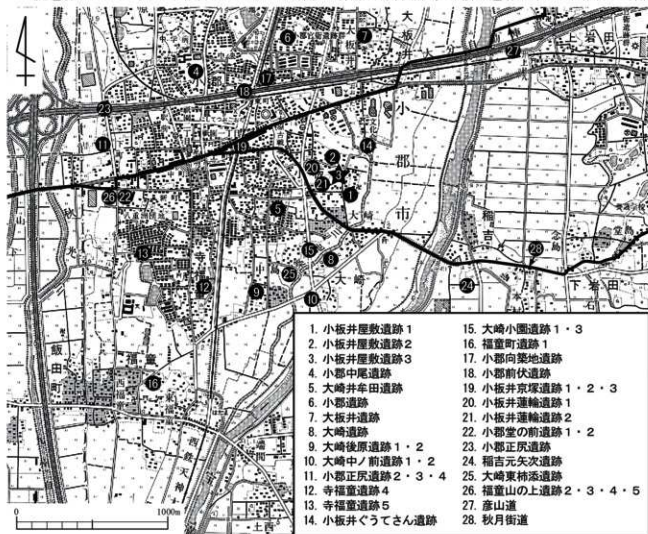
第2章 位置と環境

小郡市は、中央部を南北に宝満川が流れ、北西部に通称三国丘陵、北東部に花立山（標高130.6m）から伸びる丘陵があり、南側は緩やかに下る平坦な台地へ移行し、筑後平野へと連なる。

小板井屋敷遺跡3は、三国丘陵からならだかに伸びる低位台地の縁辺部に位置し、遺跡の東側には築地川が流れている。本調査区と道路をはさんで北隣に所在する小板井屋敷遺跡2では、北側で段丘崖を確認しており、立地として築地川を望むところに位置する。

小板井屋敷遺跡は、平成9年以降2回の調査が実施されており、第1次調査では、弥生時代中期後半、後期後半～古墳時代初頭の集落跡が（1：市報告139集）、第2次調査では、飛鳥・奈良時代の集落跡や、鎌倉～室町時代と江戸時代の溝が検出されている（2：市報告253集）。特に、第2次調査で検出された溝は、本遺跡のものとの関連性が想定される。以下では、本遺跡の周辺地域に分布する遺跡を中心に歴史的環境の概要を示す。

小板井区において人々の活動が最初に確認されたのは弥生時代であり、旧石器時代や縄文時代の遺跡はいまだ確認されていない。しかし、小板井区近隣の小郡中尾遺跡（4：市報告41集）からは押型土器が出土し、大崎井牟田遺跡（5：市報告55集）では集石が伴って押型土器が出土している。弥生時代になると、前期末より小板井区北側の小郡・大板井遺跡（6・7）で活発な活動が開始される。中期には拠点集落といえるほどの集落・墓地、丹塗り土器の優良品を多数含む祭祀土壌が広がる。爆発的な人口増加に伴う人の移動によるのか、周辺にも集落が広がり、大崎遺跡（8：市報告175集）、大崎後原遺跡1・2（9：市報告247・256集）、大崎中ノ前遺跡1・2（10：市報告116・123集）、小郡正尻遺跡2・3・4（11：市報告100・107・205集）で集落が確認され、寺福童遺跡4（12：市報告221集）



第1図 小板井屋敷遺跡3周辺遺跡分布図（S = 1 / 25,000）

で銅戈9本を埋納した遺構や寺福童遺跡5（13：市報告208集）で弥生時代から古墳時代まで連続と継続する墓域が確認されている。小坂井地区では大きな集落は確認されていないものの小坂井屋敷遺跡1（1）で集落の痕跡を確認し、小坂井ぐうてさん遺跡（14：市報告129集）では小郡・大坂井遺跡群の一角を占める墓域群の可能性が想定されている。

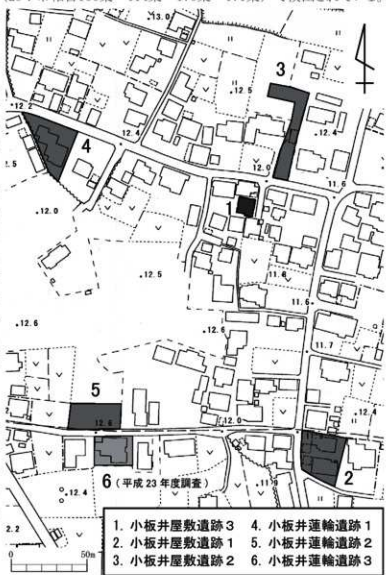
古墳時代になると、初頭～前期に大崎小園遺跡1・3（15：市報告24・136集）で庄内式系土器・布留式系土器といった外来系土器を伴った住居が検出され、他地域との交流が想定される。一方で、福童町遺跡1（16：市報告203集）のように在地系土器しか出土しない地域もある。後期になると、再び遺跡が増加し、古代筑後国御原郡衙に比定される小郡官衙遺跡（6）をはじめ、その近隣で多数の遺跡が確認されている。大坂井遺跡（7）、小郡向築地遺跡（17：市報告5集）、小郡前伏遺跡（18：県横断11集）、小坂井京塚遺跡1・3（19：市報告71・201集）、大崎小園遺跡（15）では集落が、また、少し時代が古くなるものの小坂井運輸遺跡1（20：市報告168集）・2（21：市報告251集）でも堅穴住居を中心とした集落が確認されている。また、小郡堂の前遺跡1・2（22：市報告51・188集）、小郡正尻遺跡（23：県横断道7集）では溝が、小坂井京塚遺跡2（19：市報告113集）、小郡前伏遺跡（18）、小郡遺跡8（6：市報告128集）では官道と想定される道が検出されており、当該地域が当時の拠点的な位置にあったことがうかがえる。

中世になると館を区切ると思われる大溝が、稲吉元矢次遺跡（24：市報告45集）、大崎小園遺跡（15）、大崎東柿添遺跡（25：市報告116集）、小坂井京塚遺跡（19）で、区画溝や水田に利用されたと考えられる溝が福童山の遺跡2・3・4・5（26：市報告100集・114集・170集・171集）で検出されている。

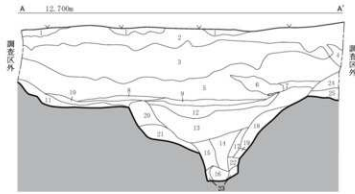
また、本遺跡を含め小坂井屋敷遺跡2（2）でも大溝が確認され遺物が多量に出土していることから小坂井地区周辺での活動の活発化が想定される。特に、稲吉元矢次遺跡では、青磁・白磁が大量に出土し、鉄滓やその他一般的な集落には見られないような土器や遺物が出土しており目を引く。

江戸時代になると、小坂井地区の近隣では肥前から小郡町、松崎町を経由して筑前へ抜ける秋月街道（彦山道）（27）が延宝元年（1673）に整備された。小坂井屋敷遺跡2（2）や本遺跡で館を区画したと思われるような大溝が検出され、小坂井地区の北西側には、小郡町の中心部が所在していることから、当時も人の活動が活発な地域であったと想定される。

近年、小坂井地区では開発が頻発しているのに伴い、小郡官衙が機能していた奈良時代や、稲吉元矢次遺跡が活発だった中世を中心に数多くのことが分かってきている。小郡市の古代や中世を復元するにあたり、今後の発掘調査の成果が期待される地域である。



第2図 小坂井屋敷遺跡3調査地位位置図（S = 1 / 2,500）



2号溝A-A'土層

- 1 灰褐色土(バラバラしている。1mm次の砂粒がやや多く混ざる)
- 2 褐色土(バラバラしている。しまりあり。1mm次の砂粒がやや多く混ざる)
- 3 灰次褐色土(粘質。しまりあり。1mm次の砂粒がやや少し混ざる)
- 4 灰次褐色土(粘質。しまりあり。砂粒が少し混ざる)
- 5 灰褐色土(粘質。薄灰褐色のブロックが混ざる。1mm次の砂粒も少し含む。遺物(土器、石)の破片混ざる)
- 6 褐色土(バラバラしている。砂土層がやや混ざる)
- 7 灰褐色土(粘質。バラバラしている。1mm以下の砂粒が混ざる)
- 8 灰褐色土(粘質。サクサクしている。2mm次の砂粒混ざる)
- 9 灰次褐色土(粘質。砂粒混ざる粘り気あり。2mm次の砂粒がやや多い)
- 10 灰次褐色土(粘質。やや粘り気あり。1mm次の砂粒が少し混ざる)
- 11 灰次褐色土(粘質。地中の砂が少し混ざる)
- 12 灰褐色土(粘質。バラバラしている。砂粒が混ざる。1mm次の砂も少し混ざる)
- 13 灰次褐色土(粘質。砂粒が混ざる。粘り気あり。12層より粘り気あり)
- 14 灰褐色土(粘質。砂粒が混ざる。サクサクしている)
- 15 薄灰褐色土(粘質。砂粒が少し混ざる。サクサクしている)
- 16 灰褐色土(粘質。粘り気が強い。粘土)
- 17 灰次褐色土(粘質。砂粒が混ざる。サクサクしている)
- 18 灰次褐色土(粘質。サクサクしている)
- 19 灰次褐色土(褐色が混ざる。砂層ではないがサクサクした土)
- 20 灰褐色土(粘質)
- 21 灰次褐色土(粘質。砂粒が混ざる。1mm次の砂もやや少し含む)
- 22 灰次褐色土(粘質。粘り気はあるが、砂粒が少し混ざる)
- 23 灰褐色土(粘質。粘り気が強いが、砂粒がやや少し混ざる。粘土)
- 24 灰次褐色土(粘質。3mm以下の砂粒が混ざる。粘り気があるがバラバラしている。同層混ざる)
- 25 灰褐色土(粘質。バラバラしている。1mm以下の砂粒が混ざる)

第4図 2号溝A-A'土層断面実測図 (S=1/40)



第3図 小板井屋敷遺跡3全体図 (S=1/40)

第3章 遺跡の概要

小坂井屋敷遺跡3は、小郡市の中央部、三国丘陵からなだらかに伸びる低位台地の縁辺部に位置し、標高12.0m前後、遺構検出面で12.5m前後を測る。表層は耕作土により構成され、その下層に遺構検出面である淡い茶褐色ローム層や黄褐色土の地山面が堆積している。

小坂井屋敷遺跡3では、溝を中心に数基の土坑を検出した。溝は、4号溝を除き南北方向に伸びている。1号溝は、下層より肥前製磁器が出土していることから、17世紀～18世紀前半の江戸時代に使用されたと考えられる。しかし、上層からは12世紀～13世紀の土師器、青磁、白磁が多数集出土していることから、埋没時には近隣から搬入した土で埋めたと考えられる。2号溝は、12世紀を中心とした遺物が多量に出土しており、南側の一段深くなる所付近で残りの良い土器がまとまって見つっている。本遺跡周辺でも、同時期に比定される溝が見つっていることから、関連性が想定される。

小坂井屋敷遺跡3で検出した遺構・遺物は以下のとおりである。

●遺構

- ・溝 5条
- ・土坑 6基
- ・ピット 1基

●遺物

- ・土師器
- ・青磁
- ・白磁
- ・石器
- ・土製品
- ・青銅製品
- ・陶磁器

第4章 遺構と遺物

1. 溝

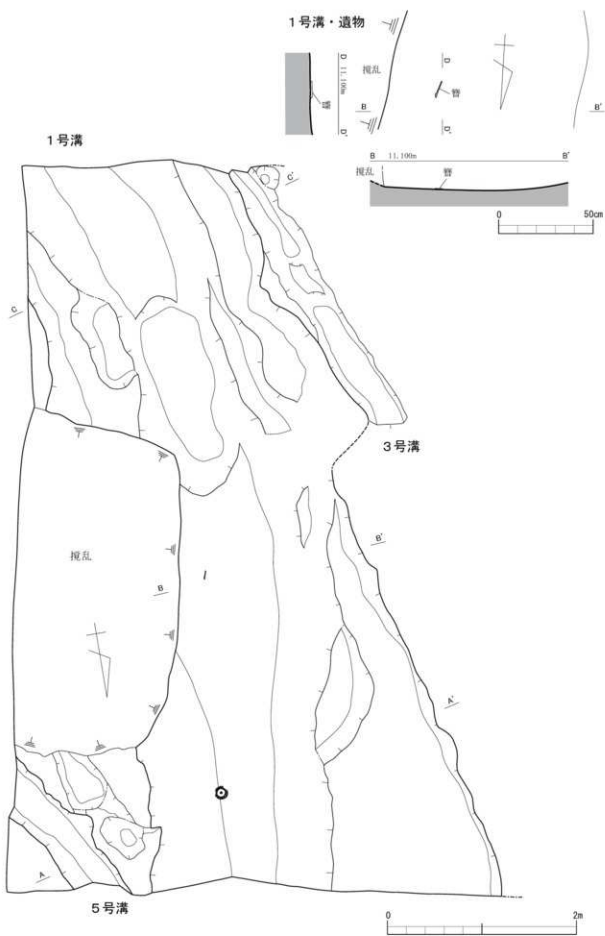
1号溝（第5・6図、図版1・2）

調査区東側において検出した南北方向に伸びる大溝であり、現代の擾乱により一部切られている。現状で全長約7.7mを測る。幅260cm、深さ120cmを測り、断面形状は逆台形型を呈する。埋土は基本的にはレンズ状堆積であるが、堆積の中位程で砂層となりそれより上層と下層とで出土する遺物に差異がみられた。上層からは、土師器の小皿・鍋、青磁、白磁が多数出土したが、下層からは完形に近い肥前製磁器皿（第8図8）が見つっており、地層累積の法則に反している。このことから、下層の堆積時は、溝を使用していた時期であり、上層は、溝を廃棄する際に12世紀～13世紀の遺物を主体として含む土を近隣から運んできて人為的に埋め戻し、その後自然堆積したと考えられる。

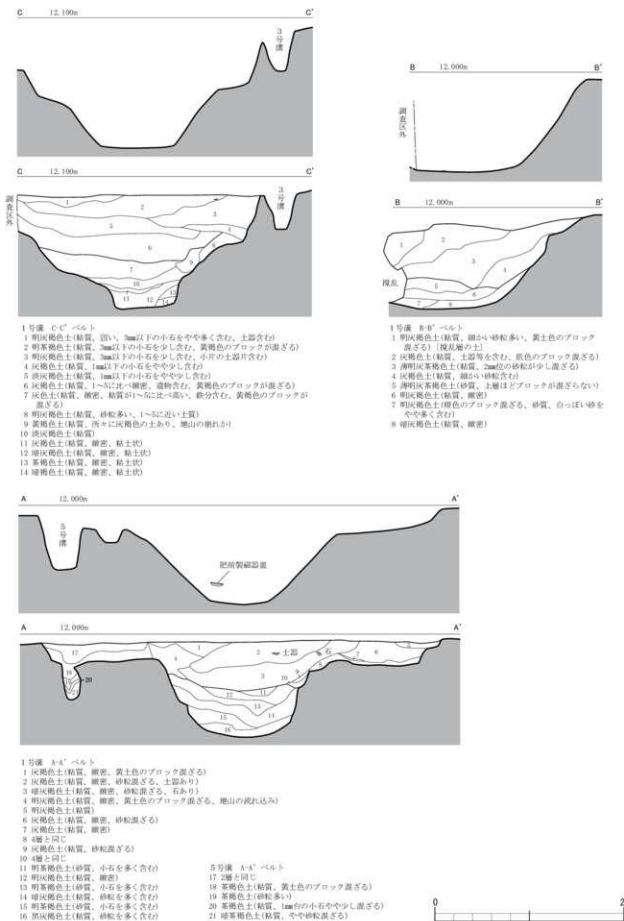
遺物は、上記の他に、下層より土錘1点、床面直上より青銅製の簪1点が出土している。

出土遺物（第7・8図、図版6・7・8）

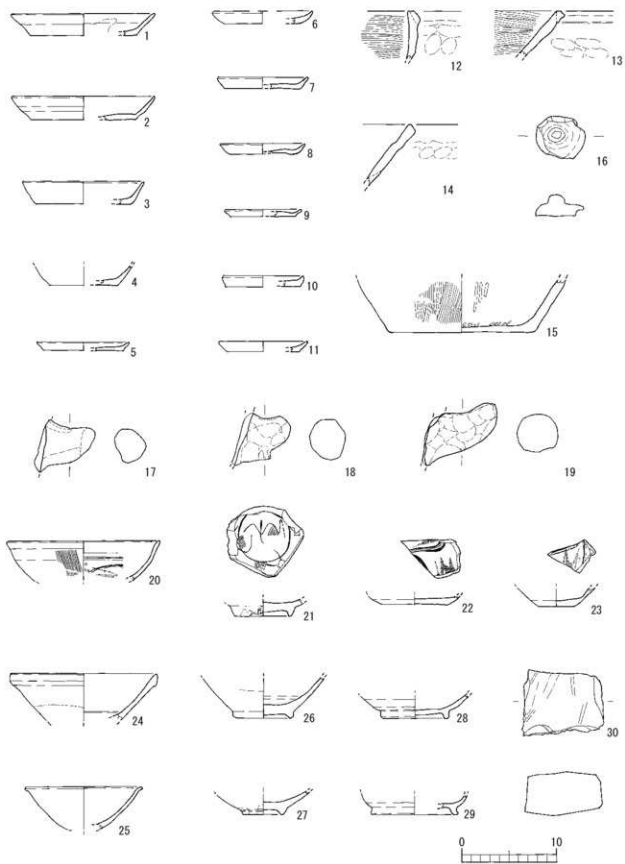
第7図は上層から出土した遺物である。1～4は土師器の坏である。口径12.7cm～15.0cm、底部は、1・3で糸切り、2で糸切り後板押し、4でへら切りが施されている。1は内面の底部から胴部下半にかけてスガが付着していることから、灯明皿として使用された可能性が想定される。5～11は土師器の皿である。口径8.0cm～10.4cm、8を除き底部と胴部の境の屈曲が明瞭に施されている。底部は、5で板押し、8で糸切りを施している他は、糸切り後板押しが施されている。12～14は土師器の鍋の口縁部片である。12のみ垂直気味に立ち上がり、13・14は外傾している。12～14ともに外面にはコゲが付着している。15は土師器の播鉢である。内面には5本1単位のおろし目が放射状に間隔をあけて施されている。16は土師器の蓋である。つまみ部分は削り、合せ口部分は回転コナデにより整形している。17～19は土師器の甌と想定される把手である。外面は、指押さえや強いナデにより整形されている。20・21は青磁の碗である。20は外面に細い櫛目を、内面にジグザグ文を施していることから、同安窠系のもと考えられる。21は削り出しの浅い肉厚の高台で、中央に向かい厚さが増している。内面の見込みには文様が描かれている。22・23は青磁の皿である。内面の見込みにはジグザグ文が描かれていることから同安窠系のもと考えられる。24～27は白磁の碗であり、24・25は口縁部～胴部下半の破片、26・27は胴部下半



第5图 1・5号沟实测图 (S=1/40)



第6図 第1・5号溝実測図 (S=1/40)



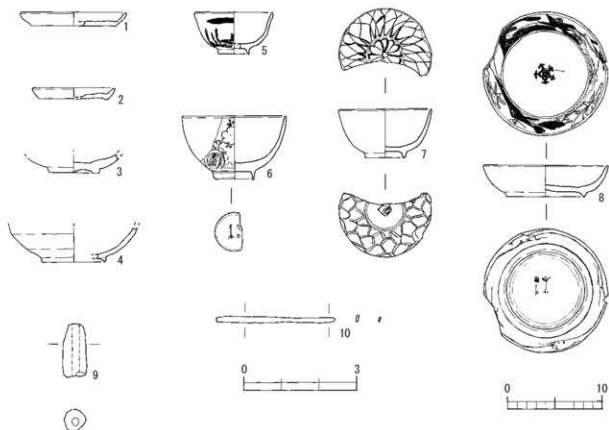
第7图 1号沟上层出土遗物实测图(S=1/4)

～底部の破片である。24は口縁部が玉縁状に拡張し、外面の軸葉は体部上半にまで施されている。25は口縁部が外反し、ヘラ削りは胴部上半まで施されている。26・27は削り出しの浅い肉厚の高台であり、外面の軸葉は、26は胴部下半以下には施されていないのに対し、27は高台部分の中位まで施されている。28は瓦質土器の碗であり、断面が正方形をした高台が付いている。29は須恵器の杯身であり、高台が付いている。30は砥面が1面の砥石である。石材は不明である。

1・12～15は14世紀～15世紀に相当すると考えられる。その他は、一部29のように8世紀のものが混ざっているものの、多くは12世紀～13世紀に相当するものと考えられる。

第8図は下層から出土した遺物である。1・2は土師器の皿である。1は口径10.9cm、胴部は底部に比べて薄い。2は口径8.5cm、底部は凸凹している。どちらも底部は糸切りが施されている。3は青磁の碗である。高台の削り出しは浅く、肉厚で、中央に向かい厚さが増している。内面の見込みには、窯詰めの際に器と器がひっつかないように引いた砂目が残存している。4は瓦質土器の碗であり、高台は断面三角形を呈する。5～7は磁器の碗である。5は外面にのみ染付が施されているが、小片のため絵の構図は不明である。6は肥前製で、外面見込に文字が描かれ、外面胴部に花が描かれている。7は肥前製の碗で、胴部外面に二重網目文、内面に網目文が描かれ、内面の見込に菊花文、外面の見込に印が描かれている。8は肥前製磁器の皿である。内面見込に五弁花文をコンニャク印判してあり、外面見込に文字が描かれている。内外面ともに胴部には草花をモチーフとした構造の絵が描かれている。9は土錘である。穿孔は直径1cmであり、中心軸からはやや外側であけられている。外面は長辺方向にヘラ削りを施して整形している。10は青銅製の簪である。片側が欠損しているが、形状は直方体で厚さは薄い。

1～4は12世紀に相当すると考えられることから上層からの混ざりと考えられる。なお、5～8は17世紀～18世紀前半に相当するものと考えられ、下層の堆積に伴うものと考えられる。



第8図 1号溝下層出土遺物実測図(1～8: S=1/4、9・10: S=1/1)

2号溝（第4・9図、図版3）

調査区西側において検出した南北方向に伸びる大溝であり、3号溝を切り、4号溝に切られている。現状で全長約6.9mを測る。幅190cm、深さ70cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は基本的にはレンズ状堆積である。南側は北側に比べて約28cm低くなっており、南側の一段低くなった付近より青磁や白磁、瓦質土器を中心に残りの良い遺物がまとまって出土している。特に、第11図1・6・7・8はまとまって出土していたことから、一括で廃棄された可能性が考えられる。

遺物は、上記の他に、土師器の皿・鍋、青磁・白磁が多数出土し、種子も1点出土している。

出土遺物（第10・11図、図版8・9・10）

第10図は、2号溝全体から出土した遺物である。1～4は瓦質土器の碗である。口径15.8cm～18.4cm、内外面ともにヘラミガキが施されているが、磨滅が激しい。3・4は断面三角形の高台が貼り付けられている。5は土師器の坏である。口径17.0cm、底部から胴部への屈曲部分の内面にはナデが強く施されている。底部には糸切りが施されている。6は瓦器の播鉢である。残りが悪く破片であるが、4本1単位のおろし目が施されている。7・8は土師器の鍋である。7は口縁部が玉縁状に拡張し、8は外側に拡張している。7・8ともに外面に薄くコゲが付着している。9は瓦器の鍋である。外面口縁部は縦状に刷毛目を施した後横方向にナデしており、外面胴部には櫛目状の工具痕が施されている。10～12は青磁の碗である。10は外面に櫛目を、内面に草花文を施し、同安窯系のもと考えられる。11は内面に飛雲文を施し、12は外面に連弁文を施していることから、龍泉窯系のもと考えられるが、12の方がやや新しい。13・14は白磁の碗である。13は口縁部が玉縁状に拡張しており、外面の軸葉は胴部下半以下には施されていない。14は口縁部を外反させ、ヘラ削りは口縁部近くまで施されている。

1～5・10～14は12世紀に、6～9は14世紀後半～15世紀に相当すると考えられる。

第11図は、B-1'土層周辺で出土した遺物である。1はほぼ完形の瓦質土器の坏である。内外面ともにヘラミガキが施されている。2は土師器の坏である。口径15.9cm、底部は糸切りが施されている。3・4は土師器の皿である。3は口径9.6cm、底部に糸切り後板押しを施し、4は口径7.0cm、底部に板押しを施している。5は土師器の播鉢である。内面には、4本1単位のおろし目が間隔をあけて放射状に施されている。6は青磁の碗である。内面に草花文が描かれ、龍泉窯系のもと考えられる。7は青磁の皿である。内面にジグザグ文様が施されており、同安窯系のもと考えられる。8は白磁の碗である。口縁部を外反させ、ヘラ削りは口縁部近くまで施されており、細く高く直立した高台をもつ。外面の軸は高台近くの胴部下半まで施されている。

1・2・6～8は12世紀、3～5は13世紀に相当すると考えられる。

3号溝（第12図、図版3・4）

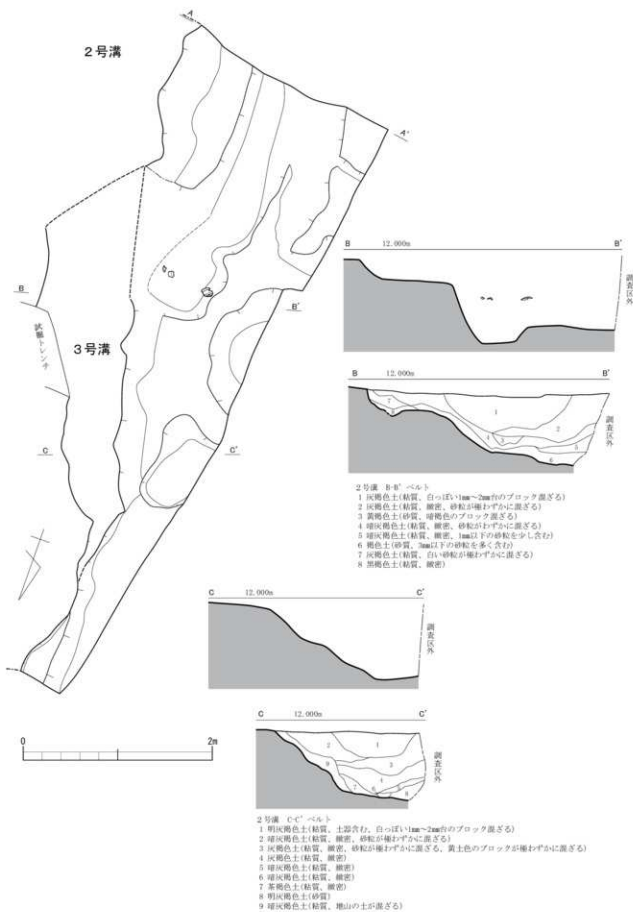
調査区の西側、2号溝の東際において検出した南北方向に伸びる溝であり、2号溝と4号溝に切られている。現状で全長約7.6mを測る。幅35cm、深さ30cmを測り、断面形状は逆台形を呈する。埋土は基本的にはレンズ状堆積であり、人為的な埋戻しは見られない。

遺物は、瓦質土器、土師器、白磁が数点出土している。

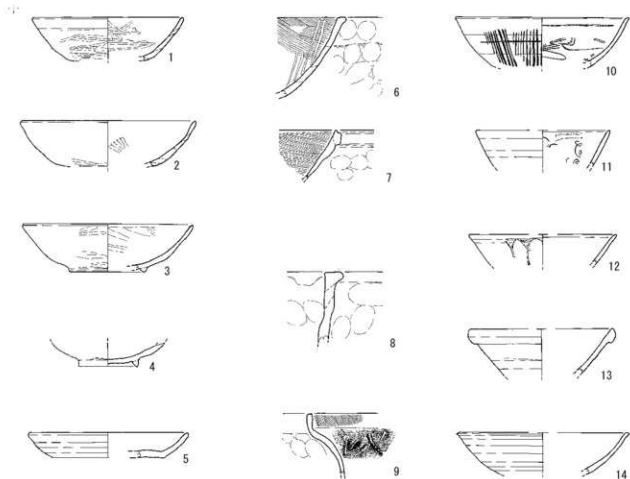
出土遺物（第13図、図版10）

第13図1・2は瓦質土器の碗である。1は口縁部から胴部下半が残存しており、一部内面にヘラミガキが残る。2は胴部下半～底部が残存しており、高台の貼り付けは粗雑である。3は土師器の坏である。口径は15.3cm、胴部への立ち上がりは緩やかで、底部はヘラ削りが施されている。4～6は土師器の皿である。口径は、8.3cm～9.0cm、底部から胴部への屈曲部分の内面にはナデが強く施されている。底部は4が糸切りのみ、5・6が糸切り後板押しが施されている。7は白磁の碗である。口縁部は玉縁状に拡張しており、外面の軸葉は口縁部のみ施されている。

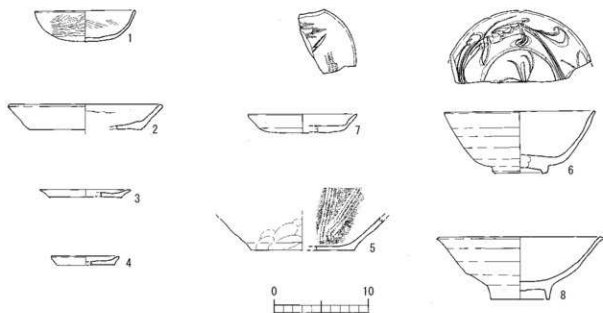
1～4・7は12世紀、5・6は13世紀に相当すると考えられる。



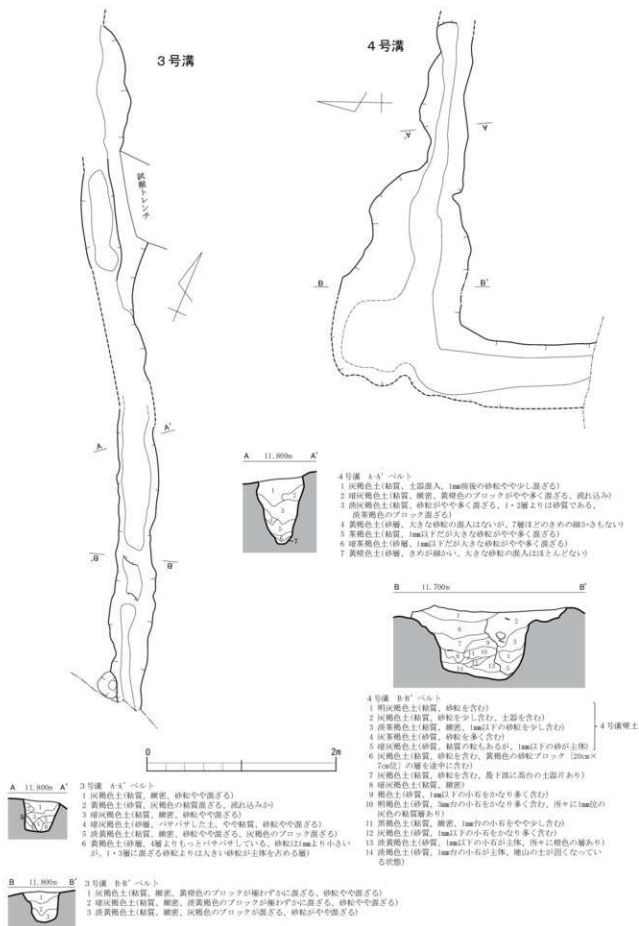
第9図 2号溝実測図 (S = 1/40)



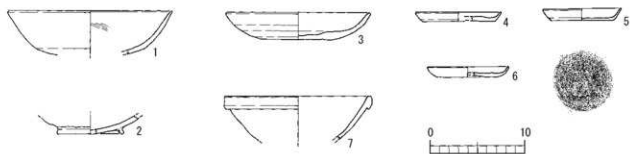
第10图 2号沟出土遗物实测图 (S=1/4)



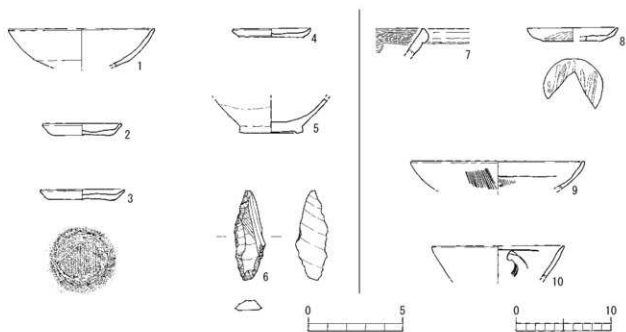
第11图 2号沟B-B'土层周边出土遗物实测图 (S=1/4)



第12図 3・4号溝実測図 (S = 1/40)



第13图 3号沟出土遗物实测图 (S=1/4)



第14图 4号沟出土遗物实测图 (1~5·7~10: S=1/4、6: S=1/1)



第15图 5号沟出土遗物实测图 (S=1/4)

4号溝（第12図、図版4）

調査区の中央部やや南側において検出したL字状に屈曲する溝で、1号溝・2号溝・3号溝を切る。現状で全長約4.5mを測る。遺構は、調査区中央から西方向に約3.0m伸びたところで南方向に屈曲し、西方向に約1.5m伸びたところで南壁にぶつかる。東西方向で幅約45cm、深さ65cmを測り、南北方向では南壁の土層より幅55cm、深さ65cmと推定され、B-B'土層より2号溝の埋没後に再度掘削したと想定される。断面形状はU字型を呈する。埋土は基本的にレンズ状堆積であり、人為的な埋戻しは見られない。また、1号溝の北端や南端、中央部などで見つかった土器片が2号溝の南壁付近など床面が一段低くなった場所で見つかった土器片と接合している（第14図7～10）。このことから、4号溝は、東から西に向かって流れており、4号溝に伴う遺物は1号溝上層において堆積した周辺遺跡の遺物であり、使用時や廃棄時に埋没した遺物を含んでいないことがわかった。

遺物は、4号溝検出面や埋土中において土師器の皿を中心に数点検出しており、その中には黒曜石製の尖頭器がある。

出土遺物（第14図、図版10）

第14図1は土師器の碗であり、胴部下半でやや内側へのカーブが強くなる。2～4は土師器の皿である。口径は8.3cm～8.9cmで、底部から胴部への屈曲部分の内面にはナデが強く施されている。底部は糸切り後板押しが施されている。5は白磁の碗である。高台は幅広く、削り出しが浅く、底部が肉厚である。外面の釉薬は体部下半以下には施されていない。6は黒曜石製の尖頭器である。7は土師器の鍋である。口縁部は玉緑状に拡張し、外面にコゲが付着している。8は瓦質土器の皿である。底部は糸切り後一定方向へのヘラミガキを施している。9・10は青磁の碗である。9は外面に櫛目を、内面にジグザグ文を施し、同安窯系のもと考えられる。10は内面に草花文を施し、龍泉窯系のもと考えられる。

6を除き12世紀～13世紀に相当すると考えられる。

5号溝（第5・6図、図版2）

調査区北東隅において検出した東壁から北壁に伸びる溝であり、1号溝に切られている。現状で全長1.9mを測り、幅約50cm、深さ60cmを測る。断面形状は逆台形を呈する。埋土は基本的にレンズ状堆積であり、人為的な埋戻しは見られない。

遺物は、土師器の皿、瓦器の鍋、白磁碗、青磁皿など数点出土したのみである。

出土遺物（第15図、図版11）

第15図1は土師器の皿である。口径は8.2cm、体部は、底部から続く粘土を指で内側に押さえた後外側につまんでいる。底部は糸切り後板押しが施されている。2は瓦器の鍋であり、胴部外面に花文が押されている。3は白磁の碗である。口縁部が玉緑状に拡張し、外面は一度塗られた釉の上から釉が垂れている。

3は11世紀中葉～12世紀初頭とやや古いものの、およそ14世紀～15世紀に相当すると考えられる。

2. 土坑

1号土坑（第16図、図版4・5）

調査区南西部隅にて2号溝・3号溝・4号溝の上面で検出した土坑であり、一部は調査区外に及ぶ。平面形は、320cm×280cmの隅丸方形を呈し、深さは約12cmと浅い。床面では西側に100cm×55cm、深さ16cmの掘り込み、南壁際に90cm×85cm、深さ8.5cmの掘り込みがみられる。

遺物は、土師器や陶磁器の小片、おはじきが出土したが、図化するにいたったものは少ない。

出土遺物（第17図、図版11）

第17図1は磁器の皿である。口縁部は花卉状に角張り、文様は銅版印刷である。2は陶器の瓶である。内外面ともに釉がかかり、外面には横方向のナデが強く施されている。3は土師器の播鉢である。

底部は高台のような作りをしており、体部は垂直に立ち上がった後、外斜する。内面には9本1単位のおろし目が放射状に施されている。4は土師器の甔と考えられる把手である。外面は指押さえやナデにより成形されている。5は土師器製のおはじきである。残念ながら上側が欠損しているため、絵柄は不明である。図案の裏側は強いナデにより凹んでいる。

時期幅はあるものの4・5を除き現代のものと考えられる。

2号土坑（第16図、図版5）

調査区東壁際にて1号溝の上面で検出した土坑であり、一部は調査区外に及ぶ。平面形は、60 cm × 50 cmの隅丸方形を呈し、深さは20 cmを測る。

埋土中からは、多量の現代の瓦が出土したが、図化するに至らなかった。

3号土坑（第16図、図版5）

調査区中央部の北側にて検出した土坑である。平面形は140 cm × 85 cmの楕円形を呈し、深さは30 cmを測る。

遺物は土師器の皿が2点出土した。

出土遺物（第18図、図版11）

第18図1は土師器の坏である。口径13.8 cm、口縁部から胴部下半にかけて外湾しながら底面付近で内側へと強くなでられ、底部は粗雑なへら切りが施されている。2は土師器の皿である。口径7.4 cm、厚めの底部に体部がつまみだされておき、底部は糸切りが施されている。

1・2ともに、14世紀前半に相当すると思われる。

4・5・6号土坑（第16図、図版5）

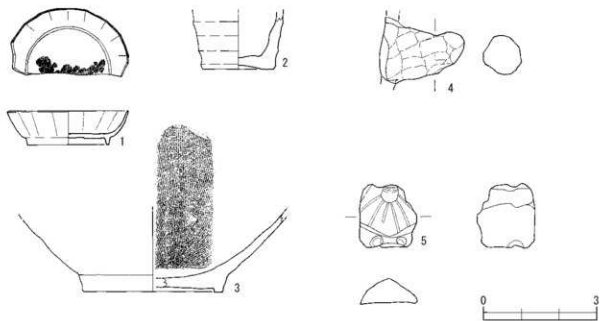
調査区中央部に検出した東西に細長い土坑である。4号土坑の平面形は70 cm × 25 cm、深さは7 cm、5号土坑の平面形は95 cm × 20 cm、深さ7 cm、6号土坑の平面形は130 cm × 30 cm、深さ7 cmを測る。試掘トレンチにより上面を削平されているためか、遺構の深さは浅く残りが悪い。

遺物は出土しなかった。

3. ビット（第16図、図版5）

調査区中央部に検出したビットであり、平面形は50 cm × 40 cm、深さ30 cmである。掘立柱建物の柱穴痕とも考えられるが、周囲を大溝に囲まれているため、他のビットを検出する事ができず、可能性の提示にとどまる。

遺物は土師器の小片を検出したが、図化するにいたらなかった。



第17图 1号土坑出土遗物实测图（1~4：S=1/4、5：S=1/1）



第18图 3号土坑出土遗物实测图（S=1/4）

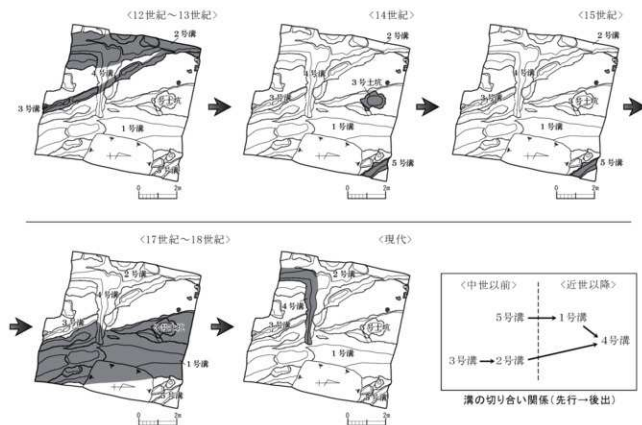
第5章 まとめ

1. 小板井屋敷遺跡3の遺構の時期とその変遷について

今回の調査で検出した遺構のうち、遺構の切り合い関係や出土遺物より時期が明確なのは、1号溝、2号溝、3号溝、5号溝、3号土坑である。

1号溝は、上層と下層とで出土する遺物の時期に差異がみられた。上層からは、12世紀を主体とする遺物が多数出土したが、下層からは17世紀～18世紀前半に相当する完形に近い肥前製磁器皿が出土しており、地層累積の法則に反している。このことから、下層の堆積時は溝を使用していた時期であり、上層は溝を廃棄した後、造成する際に12世紀～13世紀の遺物を主体として含む土を近隣から運んできて人為的に埋め戻したと考えられる。よって、1号溝は17世紀～18世紀前半時に使用され、埋没したと考えられる。2号溝は、12世紀～13世紀、14世紀後半～15世紀の遺物が出土している。特に、一部13世紀の遺物を含むものの12世紀を主体とした残りの良い遺物が中層よりまよって出土していることから、この時期に溝は機能した後埋没し、14世紀後半～15世紀の遺物は後世の混入の可能性が考えられる。3号溝は、12世紀を中心に13世紀までの遺物が出土している。このことから、2号溝とほぼ同時期に2号溝の支流としての機能が想定でき、13世紀に埋没したと考えられる。4号溝からは、12世紀～13世紀の遺物が出土しているが、1号溝の北端や南端、中央部などで見つかった土器片が2号溝の南壁付近など床面が一段低くなった場所で見つかった土器片と接合している(第14図7～10)。このことから、4号溝は、1号溝埋没後に掘られた東から西に向かって流れる溝であり、4号溝に伴う遺物は使用時や廃棄時に埋没した遺物ではなく、1号溝上層において堆積した周辺遺跡の遺物であると考えられる。5号溝は、狭小であり性格の判断はできないが、14世紀～15世紀の遺物が出土していることから、この時期に使用し、埋没したと考えられる。3号土坑は、14世紀前半の遺物が出土していることから、この時期に埋没したと考えられる。

これらを時代順に変遷を追うと、第19図のとおりとなる。このうち、1号溝と2号溝は、幅約2.0m～2.5m、深さ約70cm～120cmと規格が大きいことから、各時期の区画溝としての性格が考えられる。北側に隣接する小板井屋敷遺跡2でも南北方向の大溝が確認されている。溝が伸びる方位が同じことから関連性が想定されるが、調査区が狭小のため推測の域を出ない。



第19図 小板井屋敷遺跡3遺構変遷図

2. 小坂井屋敷遺跡3の周辺地域における中世集落の広がり

1) はじめに

小坂井地区は近年の発掘調査により中世の遺跡の広がりが明らかになってきている。特に、小坂井地区より南東へ1.2 kmのところには当時の対外交渉の拠点集落と考えられている稲吉元矢次遺跡が確認されている。中世において対外交渉を論ずる時、着目されるのが輸入陶磁器や国産陶器の種類や量比である。小坂井屋敷遺跡3でも輸入陶磁器が出土しており、稲吉元矢次遺跡から近いことから、留意が必要である。よって、本稿では、輸入陶磁器や国産陶磁器の種類や量比に着目して、中世集落の広がりについてまとめることをとし、本調査の意義を明らかにしたい。

ただし、中国産陶磁器は墓の副葬品として確認されることもあるが、集落から出土する場合はその遺物が示す性格が異なるため、今回は考察から除外したい。なお、墓出土の中国産陶磁器については『小郡市第二巻』「第5章 中世社会の暮らしと信仰」（宮田 2003）が詳しい。

2) 小郡市域における中世の遺跡の広がり

これまでの発掘調査により確認された中世の遺跡は第20図のとおりである。集落分布を比較する時間幅が数世紀にも及んでいるため、詳細な検討とはならないものの、小郡市北部を中心に墓域が多数確認され、小郡市中部を中心に集落が確認されている。しかし、集落といっても掘立柱建物等住居と想定される遺構を伴う遺跡は、稲吉元矢次遺跡、西島遺跡3、福童町遺跡3、大保龍頭遺跡1と少なく、人々の居住域について論じることは、現時点では尚早である。けれども、こうした中、鍛冶関連遺構が、大保西小路遺跡、西島遺跡3、稲吉元矢次遺跡等で確認されていることから、小郡市域内における人々の活発な活動が想定される。また、小郡正尻遺跡、福童山の上遺跡、福童町遺跡4・6では、低位段丘と谷部とを区分するような南北方向の区画溝が検出されており、台地を意識した集落形成が行われていた可能性が考えられる。

小坂井屋敷遺跡3周辺に着目すると、近隣に対外交渉の拠点と考えられる稲吉元矢次遺跡が所在し、大崎地区を中心に大崎遺跡や大崎東柿添遺跡で区画溝が見つかる等、この辺り一帯には多くの人が暮らしていた可能性が想定される。



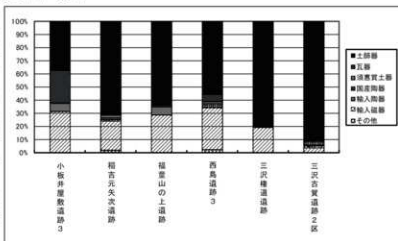
第20図 中世の遺跡分布図 (S = 1/50,000)

3) 集落遺跡から出土した遺物

中世は、輸入陶磁器等の遺物が一般集落でもみられるなど、貴重品が人々の交流の中で活発に流通してくる時代である。特に、遺跡から出土する国産や輸入陶磁器の種類・量比に着目する事で、対外交渉が見えてくる。小坂井屋敷遺跡3周辺には、対外交渉の拠点と考えられる稲吉元矢次遺跡が所在しており、稲吉元矢次遺跡が小坂井屋敷遺跡3を含め周辺の遺跡にどのような影響を与えていたか、傾向を抽出することが必要であろう。よって、以下では、稲吉元矢次遺跡の存続時期である12世紀～14世紀の小郡市内で比較的まとまって遺物が出土している稲吉元矢次遺跡、西島遺跡3、福童山の上遺跡、三沢権道遺跡、三沢古賀遺跡2区と本報告の小坂井屋敷遺跡3を対象に比較を行うこととする。なお、分析対象資料は報告書掲載分のみとするが、それ以外にも多数の遺物が出土している。本来であれば、これらの資料全てを対象資料とすべきところであるが、報告書掲載分のみでも傾向は読み取れると考え、以下、遺跡別の出土量比、遺跡内での遺構別の出土遺物の傾向について検討を行いたい。

i) 遺跡別における遺物の傾向 (第21図・表1)

まず、各遺跡における全体の出土遺物の比率をみると、第21図のようになった。全体的に日常で使用される在地の土器が大半を占めているが、一方で、遺跡により国産・輸入陶磁器の量比が異なることが分かる。特に、輸入陶磁器に着目すると、出土量が20%以上の遺跡である小坂井屋敷遺跡3、稲吉元矢次遺跡、福童山の上遺跡、西島遺跡3と、20%未満の遺跡である三沢古賀遺跡2区、三沢権道遺跡に区分が可能である。輸入陶磁器が20%以上出土する遺跡の内、稲吉元矢次遺跡では天目茶碗、緑釉陶器が出土している他、

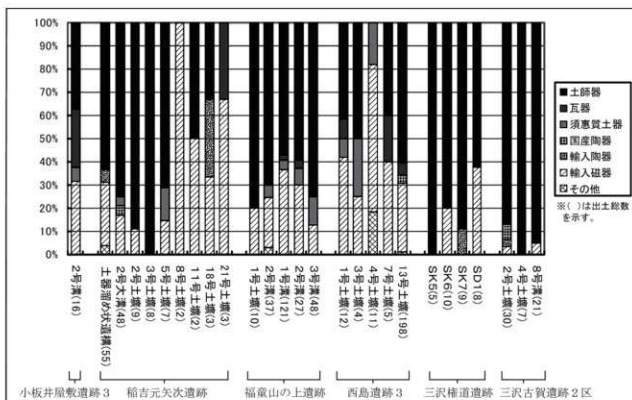


第21図 遺跡別遺物出土量比

量比には反映していないものの当時貴重品だった石鍋も出土しており、種類の豊富さがうかがえる。また、同じく輸入陶磁器が20%以上出土する遺跡である西島遺跡、福童山の上遺跡でも石鍋が出土している。これらの遺跡は、稲吉元矢次遺跡ほど種類の豊富さはみられないが、輸入陶磁器や石鍋等当時の貴重品が流通した遺跡と考えられる。

ii) 遺跡内での遺構別出土遺物の傾向 (第22図・表1)

次に、1遺跡内でも遺構により出土遺物の傾向が異なるのか検討をしてみたい。対象遺構として、5点以上遺物が出土しているものを抽出することとした。各遺跡における各遺構ごとの出土遺物の比率をみると第22図のようになった。輸入陶器が20%以上である遺跡では、ほぼ全ての遺構から輸入陶磁器や国産陶器等、当時貴重品であった遺物が出土している。特に、稲吉元矢次遺跡では、土壌によっては輸入陶磁器だけで50%以上の出土率となるものがある一方で、輸入陶磁器のみが出土する遺構もみられた。一方、輸入陶磁器が20%未満である遺跡では、輸入陶磁器が全く出土せず土器のみが出土する遺構があり、輸入陶磁器の出土比率も低い。しかし、表1のように、三沢古賀遺跡2区では、常滑産か丹波産と考えられる土器の小片や東播系の土器も出土しており、輸入陶磁器等当時の貴重品の出土が少ない遺跡であっても貴重品が流通していたことが窺える。



第22図 各遺跡の遺構別遺物出土量比

表1 各遺跡の遺構別遺物の出土数

遺跡	遺構	輸入陶磁器			国産土器	
		白磁	青磁	輸入陶器	国産陶器	石罫
小坂井屋敷遺跡3	2号溝(16)	2	3			
稲吉元次遺跡	土器溜め状遺構(18)	2	13	天目茶碗3		
	2号大溝(48)	3	5		線袖陶器2	
	2号土壘(9)	1				
	3号土壘(8)					
	5号土壘(7)	1				
	8号土壘(2)		2			
	11号土壘(2)	1				
	18号土壘(3)		1	天目茶碗1		
21号土壘(3)	2					
福童山の上遺跡4	1号土壘(10)	1	1			出土
福童山の上遺跡3	2号溝(37)	1	7			
	1号溝(121)	20	24			
福童山の上遺跡2	2号溝(27)	4	4			
	3号溝(48)	3	3			
	1号土壘(12)	2	3			
西島遺跡3	3号土壘(4)	1				
	4号土壘(11)	1	6			
	7号土壘(5)	2				
	13号土壘(198)	27	25			出土
三沢権道遺跡	SK5(5)					
	SK6(10)		2			
	SK7(9)	1		天目茶碗1		
	SK1(8)		3			
三沢古賀遺跡	3号土壘(30)	1			1	東播磨1 常滑or丹波1
	4号土壘(7)					
	8号溝(21)		1			

※ () は出土総数を示す。

※輸入陶磁器と国産陶器と石罫以外の出土遺物は土師器である。

iii) 小結

i) ii) より、遺物のセット関係と、遺物の量比により、中世の集落の傾向として次の3つのタイプが想定される。

- a: 輸入陶磁器 20%以上+種類が豊富……稲吉元矢次遺跡
- b: 輸入陶磁器 20%以上+種類が少ない……小板井屋敷遺跡3、福童山の上遺跡、西島遺跡3
- c: 輸入陶磁器 20%未満……三沢権道遺跡、三沢古賀遺跡2区

4) まとめ

2) 3) より、中世の遺跡として、以下3つのパターンが想定される。

A: 遺物で、中国産陶磁器を20%以上含み、国内産の多種多様な土器や石鍋も多く含む。

また、鍛冶関連遺構など多様な生産域が確認されている遺跡。

(例) 稲吉元矢次遺跡、西島遺跡3

B: 遺物で、中国産陶磁器を20%以上含むが、国内産の多種多様な土器はほとんど含まないものの、石鍋を数点含む遺跡。

(例) 福童山の上遺跡、小板井屋敷遺跡3

C: 遺物で、中国産陶磁器が20%未満の遺跡

(例) 三沢権道遺跡、三沢古賀遺跡2区

Aのような集落は、質・量的な観点から秀でており、これまでの評価として当時の拠点集落と考えられてきている。Bは、Aの近くに分布する傾向があり、特に、稲吉元矢次遺跡周辺では、稲吉元矢次遺跡を含め、大崎遺跡、大崎東柿添遺跡で、館を区切ると考えられる大溝が検出されている。このことから、稲吉元矢次遺跡を中心に大崎区を含め集落が一面に広がっていたと考えられる。Cは、質・量的な観点からは秀でた集落とはいえない。これまでの評価としてこのような集落が中世の一般的な集落であった可能性が指摘されているが、今回の分析からは断定することは時期尚早と考える。今後の調査成果を踏まえ、位置づけを明確にしていきたい。

上記より、小板井屋敷遺跡3は、稲吉元矢次遺跡から広がるBのような集落の可能性が高いと考えられる。しかし、発掘面積の狭小さや出土遺物の少なさより推測の域を出ない。今後の周辺での調査成果を期したい。

<参考文献>* 報告書は割愛

宮田浩之 2003 「第四編中世の小郡 第5章中世社会の暮らしと信仰」『小郡市史第二巻 通史編』

宮田浩之 1999 「中世 III 考古資料」『小郡市史第五巻 資料編』

出土遺物観察表

<出土土器>

法量＝口：口径、高：器高、底：底径、径：直径

器種＝土：土師器、須：須恵器、青：青磁、白：白磁、瓦：瓦質土器、磁：磁器、陶：陶器

検出 番号	図版 番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	残存率	備考
7-1	6	1号溝 上層	土、坏	口：(14.9) 底：(11.1) 高：2.3	外：にぶい橙 (75YR7/4) 内：淡黄(5YR8/3)	微砂をやや多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り。
7-2	6	1号溝 上層	土、坏	口：(15.0) 底：(11.0) 高：2.5	外：淡黄(2.5Y8/3) 内：灰白(10YR8/2)	細砂をやや多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り後板押し。
7-3	6	1号溝 上層	土、坏	口：(12.7) 底：(10.0) 高：2.4	外：にぶい橙 (75YR6/4) 内：橙(75YR7/6)	微砂を少し含む	良好	外：横方向ナデ 内：横方向ナデ	口～底約 1/5	底部は糸切り。
7-4	6	1号溝 上層	土、坏	底：(7.2) 高：2.1	外：橙(75YR7/6)・ 黄灰(2.5Y6/1) 内：橙(5YR6/6)	微砂をやや多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	胴上～底 約1/4	底部はヘラ切り。
7-5	6	1号溝 上層	土、皿	口：(9.7) 底：(8.4) 高：0.85	外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：にぶい橙 (75YR6/4)	微砂をやや多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/5	底部は板押し。
7-6	6	1号溝 上層	土、皿	口：(10.4) 底：(8.0) 高：1.3	内外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	微砂をやや多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/6	底部は糸切り後板押し。
7-7	6	1号溝 上層	土、皿	口：(9.4) 底：(8.0) 高：1.2	外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：にぶい橙 (75YR7/4)	微砂をやや多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り後板押し。
7-8	6	1号溝 上層	土、皿	口：(8.9) 底：(6.9) 高：1.1	内外：淡黄(2.5Y8/3)	微砂を少し含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/3	底部は糸切り。
7-9	6	1号溝 上層	土、皿	口：(8.0) 底：(6.8) 高：0.75	外：橙(75YR7/6) 内：橙(75YR6/8)	微砂を多く含む	良好	外：ナデ 内：ナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り後板押し。
7-10	6	1号溝 上層	土、皿	口：(8.4) 底：(8.0) 高：1.15	内外：にぶい黄橙 (10YR7/3)	微砂をやや多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り後板押し。
7-11	6	1号溝 上層	土、皿	口：(9.3) 底：(7.7) 高：1.05	外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：淡黄橙 (10YR8/3)	微砂を多く含む	良好	外：回転コナデ 内：回転コナデ	口～底約 1/2	底部は糸切り後板押し。
7-12	6	1号溝 上層	土、鍋	高：5.2	外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)	砂粒をやや多く含む	良好	外：コナデ、指押さえ 内：横方向ハケメ	口～胴上 小片	外面胴部下半にス付属着。
7-13	6	1号溝 上層	土、鍋	高：4.95	外：にぶい橙 (75YR6/4) 内：橙(75YR6/6)	微砂をやや多く含む	良好	外：コナデ、指押さえ 内：横方向ハケメ	口～胴上 小片	外面はスつけている。
7-14	6	1号溝 上層	土、鍋	高：6.5	外：明褐(75YR5/6) 内：にぶい橙 (75YR7/3)	微砂をやや多く含む	良好	外：指押さえ 内：マメツ	口～胴上 小片	外面にコガあり。
7-15	6	1号溝 上層	土、鉢	底：(15.6) 径：5.6	内外：にぶい黄橙 (10YR7/4)	微砂を少し含む	良好	外：縦方向ハケメ 内：マメツ	胴下～底 約1/4	内面におろし目あり。
7-16	6	1号溝 上層	土、蓋	径：6.0～ 4.1	外：にぶい橙 (75YR7/4)	微砂を少し含む	良好	外：ヘラ削り、回転コナデ	頂～底約 1/1	頂部は削り落して形成している。
7-17	6	1号溝 上層	土、瓶	高：5.5	外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)	細砂をやや多く含む	良好	外：指押さえ、ナデ 内：マメツ	約1/1	
7-18	6	1号溝 上層	土、瓶	高：5.5	外：橙(75YR7/6) 内：橙(75YR6/6)	微砂を多く含む	良好	外：指押さえ 内：マメツ	約1/1	
7-19	6	1号溝 上層	土、瓶	高：6.5	外：にぶい橙 (75YR6/4) 内：淡黄橙 (10YR8/3)	微砂をやや多く含む	良好	外：指押さえ 内：マメツ	約1/1	
7-20	7	1号溝 上層	青、碗	口：(16.0) 高：4.2	内外：オリーブ黄 (5Y6/3)	微砂を少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴下 約1/10	外面に横目、内面にジグザグ文様あり。
7-21	7	1号溝 上層	青、碗	底：6.0 高：1.8	外：灰白(75Y7/2) 内：明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	微砂を少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴下～底 約1/1	
7-22	7	1号溝 上層	青、皿	底：(6.8) 高：0.9	内外：明オリーブ灰 (5GY7/1)	微砂を少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴下～底 約1/4	内面にジグザグ文様あり。
7-23	7	1号溝 上層	青、皿	底：(3.7) 高：2.0	外：明オリーブ灰 (5GY7/1) 内：明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	微砂を少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	胴下～底 約1/4	内面にジグザグ文様あり。
7-24	7	1号溝 上層	白、碗	口：(15.2) 高：5.0	内外：灰白(10Y8/1)	微砂を少し含む	良好	外：釉薬、ヘラ削り 内：釉薬	口～胴下 約1/4	
7-25	7	1号溝 上層	白、碗	口：(12.4) 高：4.5	内外：灰白(10Y7/1)	細砂を少し含む	良好	外：釉薬 内：釉薬	口～胴下 約1/4	

棟号	図面番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	出土	備成	成形・調整技法	残存率	備考
7-26	7	1号溝 上層	白、磁	底: (6.4) 高: 4.4	内外: 灰白(10Y8/1)	磁砂を少し含む	良好	外: 釉薬、ヘラ削り 内: 釉薬	胴下～底 約1/2	
7-27	7	1号溝 上層	白、磁	底: 4.3 高: 2.5	内外: 灰白(5GY8/1)	磁砂をわずかに含む	良好	外: 釉薬、回転コナデ 内: 釉薬	胴下～底 約1/1	内面見込部に輪状の砂粒あり。
7-28		1号溝 上層	瓦、磁	底: 7.2 高: 2.6	外: 灰白(5Y7/1) 内: 灰(5Y4/1)	磁砂を少し含む	良好	外: 回転コナデ 内: マツ、ヘラミガキ	胴下～底 約1/1	
7-29		1号溝 上層	須、 外身	底: (9.0) 高: 2.2	外: 灰(7SY5/1) 内: 灰オリーブ (5Y5/2)	磁砂を少し含む	良好	外: 回転コナデ 内: 回転コナデ	胴下～底 約1/5	
8-1	7	1号溝 下層	土、皿	口: (10.9) 底: (8.4) 高: 1.8	外: 淡黄緑 (10YR8/4) 内: にふい青緑 (7.5YR7/4)	磁砂を少し含む	良好	外: 回転コナデ 内: 回転コナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り。
8-2	7	1号溝 下層	土、皿	口: (8.5) 底: (7.2) 高: 1.15	外: 淡黄緑 (10YR8/4) 内: にふい青緑 (10YR7/4)	磁砂をやや多く含む	良好	外: 回転コナデ 内: 回転コナデ	口～底約 1/3	底部は糸切り。
8-3	7	1号溝 下層	青、碗	底: 5.2 高: 2.1	内外: 灰オリーブ (7.5Y5/2)	磁砂をわずかに含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	胴下～底 約1/1	内外面ともに砂粒付着。
8-4	7	1号溝 下層	瓦、碗	底: (6.5) 高: 3.7	外: 灰(7SY5/1) 内: 灰白(7.5Y8/1)	磁砂を少し含む	良	外: 回転コナデ 内: マツ	胴下～底 約1/4	
8-5	8	1号溝 下層	磁、碗	口: (8.1) 底: (3.2) 高: 4.4	外: 明緑灰 (7.5GY8/1) 内: 灰白(5GY8/1)	磁砂をわずかに含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	胴下約 1/2	染付。
8-6	8	1号溝 下層	磁、碗	口: (10.8) 底: 4.0 高: 6.7	内外: 明緑灰 (7.5GY8/1)	磁砂をわずかに含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	口～底約 1/4	染付。
8-7	8	1号溝 下層	磁、碗	口: 9.7 底: 4.2 高: 5.2	内外: 明緑灰 (7.5GY8/1)	磁砂をわずかに含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	口～底約 1/2	高台部に砂粒付着。
8-8	8	1号溝 下層	磁、皿	口: 13.1 底: 8.2 高: 3.35	内外: 灰白(10Y8/1)	磁砂を少し含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	口～底約 1/1	染付。
10-1	8	2号溝	瓦、碗	口: (15.8) 底: 4.55	外: 灰(7SY6/1) 内: 灰(7SY5/1)	磁砂を少し含む	良好	外: コナデ、ヘラミガキ 内: コナデ、ヘラミガキ	口～胴下 約1/4	
10-2	8	2号溝	瓦、碗	口: (18.4) 底: 4.75	外: 灰白(7.5Y8/1) 内: 灰(7.5Y4/1)	磁砂を少し含む	良好	外: ヘラミガキ 内: ヘラミガキ	口～胴下 約1/3	
10-3	8	2号溝	瓦、碗	口: (18.1) 底: (8.1) 高: 5.0	外: 灰(7SY6/1) 内: 灰白(5Y7/2)	磁砂を少し含む	良好	外: ヘラミガキ 内: ヘラミガキ	口～底約 1/4	
10-4		2号溝	土、碗	底: (6.1) 高: 2.5	外: 灰白(10YR8/2) 内: 淡黄緑 (7.5YR6/3)	磁砂を少し含む	良	外: コナデ 内: 不定方向ナデ	胴下～底 約1/3	
10-5		2号溝	土、坪	口: (17.0) 底: (11.8) 高: 2.65	外: 灰白(2.5Y8/2) 内: 灰白(10YR8/2)	磁砂をやや多く含む	良好	外: コナデ 内: コナデ、指押さえ	口～底約 1/3	底部は糸切り。
10-6		2号溝	瓦鉢、 甕鉢	高: 5.4	外: 灰(5Y3/1) 内: 灰白(5Y8/1)	磁砂をやや多く含む	良	外: 指押さえ 内: ハケメ	口～胴上 小片	内面におろし目あり。
10-7	9	2号溝	土、鍋	高: 5.2	外: にふい青緑 (10YR5/3) 内: にふい青緑 (7.5YR6/4)	磁砂を多く含む	良好	外: コナデ、指押さえ 内: 横方向ハケメ	口～胴上 小片	
10-8		2号溝	土、鍋	高: 7.6	外: 箱灰(5YR5/1) 内: 橙(7.5YR6/6)	砂粒を多く含む	良好	外: 回転ナデ、指押さえ 内: コナデ、指押さえ	口～胴上 小片	外面にコゲあり。
10-9	9	2号溝	瓦鉢、 鍋	高: 6.5	外: 灰(7SY5/1) 内: にふい青緑 (10YR6/3)	磁砂をやや多く含む	良好	外: ハケメ後ナデ消し、ナデ 内: コナデ、指押さえ	口～胴上 小片	外面胴部にハケメ状工具による記号あり。
10-10	9	2号溝	青、碗	口: (18.2) 高: 5.3	外: オリーブ黄 (7.5Y6/3) 内: 灰オリーブ (7.5Y5/3)	磁砂を少し含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	口～胴下 約1/4	外面に顔目、内面に草花文あり。
10-11	9	2号溝	青、碗	口: (14.0) 高: 3.9	外: オリーブ黄 (7.5Y6/3) 内: 灰白(10Y7/2)	磁砂を少し含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	口～胴下 約1/6	内面は飛雲文か。
10-12	9	2号溝	青、碗	口: (15.5) 高: 3.3	内外: オリーブ灰 (10Y5/2)	磁砂をわずかに含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	口～胴下 約1/10	外面に蓮弁文あり。
10-13	9	2号溝	白、碗	口: (15.2) 高: 4.9	内外: 明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	磁砂をやや多く含む	良好	外: 釉薬、ヘラ削り 内: 釉薬	口～胴下 約1/6	
10-14	9	2号溝	白、碗	口: (18.3) 高: 4.4	内外: 灰白(10Y8/1)	磁砂をわずかに含む	良好	外: 釉薬 内: 釉薬	口～胴下 約1/7	
11-1	9	2号溝 B-B'土 層周辺	瓦、坪	口: 10.6 底: 1.2 高: 3.3	外: 灰(NS/-) 内: 灰白(5Y8/1)	磁砂をやや多く含む	良好	外: コナデ、ヘラミガキ 内: コナデ、ヘラミガキ	口～底約 1/1	
11-2	9	2号溝 B-B'土 層周辺	土、坪	口: (15.9) 底: (11.8) 高: 2.65	外: 灰黄(2.5Y7/2) 内: にふい青緑 (10YR7/2)	磁砂を少し含む	良好	外: 回転コナデ 内: 回転コナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り。
11-3	9	2号溝 B-B'土 層周辺	土、皿	口: (9.6) 底: (7.6) 高: 0.8	内外: 淡黄緑 (10YR8/3)	磁砂をやや多く含む	良好	外: 回転コナデ 内: 回転コナデ	口～底約 1/4	底部は糸切り後擦りし。

押戻番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm (=標準)	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	残存率	備考
11-4	9	2号溝 B-B'土層 周辺	土、皿	口:(7.0) 底:(6.0) 高:0.95	内外:にぶい黄緑 (10YR7/4)	微砂をやや多く含む	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ	口~底約 1/4	底部は板押し。
11-5	9	2号溝 B-B'土層 周辺	土、 楕鉢	口:(10.8) 底:3.5	内外:橙(5YR8/6)	微砂をやや多く含む	良好	外:指押さえ 内:マメツ	胴下~底 約1/4	内面におろし目あり。
11-6	10	2号溝 B-B'土層 周辺	青、碗	口:(16.0) 底:(5.9) 高:4.5	外:オリーブ灰 (10Y5/2) 内:オリーブ灰 (2.5GY6/1)	微砂を少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~底約 1/2	内面に草花文あり。
11-7	10	2号溝 B-B'土層 周辺	青、皿	口:(11.4) 底:(4.6) 高:2.0	内外:灰白(10Y7/2)	微砂を少し含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~底約 1/3	内面にジグザグ文様あり。
11-8	10	2号溝 B-B'土層 周辺	白、碗	口:(17.6) 底:(6.2) 高:6.6	外:明オリーブ灰 (2.5GY7/1) 内:灰白(2.5GY8/1)	微砂をやや多く含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~底約 1/2	
13-1	3号溝	瓦、碗	口:(17.2) 底:(7.5) 高:4.6	外:灰白(2.5Y7/1) 内:灰白(2.5Y8/1)	微砂を少し含む	良好	外:マメツ 内:ヘラミガキ	口~胴下 約1/2	内外面ともに 磨しい。	
13-2	3号溝	瓦、碗	口:(7.0) 底:(7.5) 高:2.0	外:灰(10Y5/1) 内:灰(10Y4/1)	微砂をやや多く含む	良	外:マメツ 内:マメツ	胴下~底 約1/3		
13-3	10	3号溝	土、杯	口:(15.3) 底:(7.8) 高:2.85	内外:洗黄緑 (10YR8/3)	微砂を少し含む	良好	外:回転ヨコナデ 内:回転ヨコナデ	口~底約 1/3	底部はヘラ切り。
13-4	10	3号溝	土、皿	口:(9.0) 底:(7.8) 高:0.95	内外:洗黄緑 (7.5YR8/3)	微砂を少し含む	良好	外:ヨコナデ 内:ヨコナデ、指押さえ	口~底約 1/4	内面底部は一定方向 の指ナデ。 底部は糸切り。
13-5	10	3号溝	土、皿	口:(8.6) 底:(6.8) 高:1.05	外:洗黄緑 (7.5YR8/4) 内:にぶい黄緑 (7.5YR7/4)	微砂をやや多く含む	良好	外:回転ナデ 内:マメツ	口~底約 2/3	底部は糸切り後板押し。
13-6	10	3号溝	土、皿	口:8.3 底:6.4 高:1.25	内外:洗黄緑 (7.5YR8/4)	微砂をやや多く含む	良好	外:回転ヨコナデ 内:回転ヨコナデ、ナデ、指 押さえ	口~底約 1/1	内面底部は一定方向 の指ナデ。 底部は糸切り後板押し。
13-7	10	3号溝	白、碗	口:(13.2) 底:4.7	外:灰白(10Y8/1) 内:灰白(5Y7/1)	微砂を少し含む	良好	外:ヘラ削り、釉薬 内:釉薬	口~胴下 約1/5	
14-1	4号溝	土、碗	口:(15.4) 底:4.0	外:洗黄緑 (7.5YR8/3) 内:にぶい黄緑 (10YR7/3)	微砂を少し含む	良好	外:マメツ 内:マメツ	口~胴下 約1/8		
14-2	10	4号溝	土、皿	口:(8.4) 底:(5.6) 高:1.2	外:洗黄緑 (10YR8/3) 内:にぶい黄緑 (10YR7/4)	微砂を少し含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ後一定方向の ナデ	口~底約 1/3	底部は糸切り後板押し。
14-3	10	4号溝	土、皿	口:8.9 底:7.2 高:1.1	外:灰白(10YR8/2) 内:洗黄緑 (10YR8/3)	微砂を少し含む	良好	外:ヨコナデ 内:一定方向ナデ	完形	底部は糸切り後板押し。
14-4	10	4号溝	土、皿	口:8.3 底:7.0 高:0.9	内外:洗黄(2.5Y8/3)	微砂を少し含む	良好	外:回転ヨコナデ 内:一定方向ナデ	完形	底部は糸切り後板押し。
14-5	4号溝	白、碗	底:(6.6) 高:3.7	外:灰白(5Y7/1)・ 灰黄(2.5Y7/2) 内:灰白(5Y7/1)	微砂を少し含む	良好	外:釉薬、ヘラ削り 内:釉薬	口~底約 1/2		
14-7	4号溝	土、碗	高:2.9	外:にぶい黄緑 (10YR8/3) 内:にぶい黄緑 (7.5YR7/4)	微砂を多く含む	良好	外:ヨコナデ 内:横方向ハケメ	口~胴上 小片	外面にコゲあり。 1号溝上層と接合。	
14-8	10	4号溝	瓦、皿	口:(9.6) 底:(6.2) 高:1.35	内外:灰白(5Y7/1)・ 灰(5Y4/1)	微砂をわずかに含む	良好	外:ヘラミガキ 内:ヘラミガキ	口~底約 1/2	底部は糸切り後一定方向 のヘラミガキ。 1号溝上層と接合。
14-9	4号溝	青、碗	口:(18.2) 底:3.0	外:反オリーブ (7.5Y6/2) 内:明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	微砂をわずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~胴上 約1/5	外面に磨目あり。 内面にジグザグ文様あり。 1号溝上層と接合。	
14-10	4号溝	青、碗	口:(14.0) 底:3.5	外:反オリーブ (7.5Y5/3) 内:オリーブ黄 (7.5Y6/3)	微砂をわずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~胴上 約1/6	内面に草花文あり。 1号溝上層と接合。	
15-1	11	5号溝	土、皿	口:(8.2) 底:(6.7) 高:1.0	内外:灰白(10YR 8/2)	微砂をやや多く含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約 1/2	底部は糸切り後板押し。
15-2	11	5号溝	瓦器、 鉢	高:4.3	内外:灰(5Y5/1)	微砂を少し含む	良好	外:回転ナデ、工具状ミガキ 内:指押さえ	胴上小片	胴部外面に「菊花」文 を押捺あり。
15-3	11	5号溝	白、碗	口:(15.4) 底:3.2	内外:明オリーブ灰 (2.5GY7/1)	微砂をやや多く含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~胴上 約1/8	
17-1	1号土坑	磁、皿	口:(12.8) 底:(8.6) 高:3.6	内外:灰白(N6/)	微砂をわずかに含む	良好	外:釉薬 内:釉薬	口~底約 1/2	口縁部が花卉状に角 張る。 銅板印刷。	

押固番号	図版番号	出土遺構	器種	法量cm (復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整技法	残存率	備考
17-2	11	1号土坑	陶、瓶	底:(7.4) 高:5.7	外:にぶい黄 (2SY6/4) 内:透黄(2SY7/4)	微砂をやや多く含む	良好	外:輪蓋、回転コナデ 内:回転コナデ	胴下~底 約1/3	
17-3	11	1号土坑	土、 磁鉢	底:(14.8) 高:8.4	外:暗褐(10YR3/3) 内:にぶい橙 (5YR7/4)	微砂を少し含む	良好	外:輪蓋、回転ヘラ削り 内:おろし目	胴下~底 約1/3	
17-4		1号土坑	土、瓶	高:7.1 厚:4.1	内外:にぶい黄橙 (10YR7/4)	細砂をやや多く含む	良好	外:指ナデ、指押さえ 内:マメツ	約1/1	
18-1	11	3号土坑	土、环	口:(13.8) 底:(10.2) 高:2.5	外:にぶい黄橙 (10YR7/3) 内:にぶい黄橙 (10YR6/3)	微砂をやや多く含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約 1/5	底部は粗雑なヘラ切り。
18-2	11	3号土坑	土、皿	口:(7.4) 底:(7.0) 高:0.95	内外:浅黄橙 (10YR8/2)	微砂を少し含む	良好	外:回転ナデ 内:回転ナデ	口~底約 1/4	底部は永切り。

<出土石器>

押固番号	図版番号	出土遺構	器種	石材	計測値				備考
					長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
7-30	8	1号溝上層	砥石		6.85	8	4.6	430	砥面1面。
14-6	10	4号溝	剥片尖頭器	黒曜石	4.75	1.55	0.5	3.8	

<出土土製品>

押固番号	図版番号	出土遺構	器種	色調	計測値			残存率	備考
					長さcm	幅cm	厚さcm		
9-9	8	1号溝下層	土縁	にぶい橙(7SYR7/4)	4.05	1.6	1.6	ほぼ完形	工具で面を取りながらよく仕上げている。
17-5	11	1号土坑	おはしき	にぶい橙(5YR7/4)	1.65	1.5	0.6	上部削が欠損	仏様か?

<出土青銅製品>

押固番号	図版番号	出土遺構	器種	残存率	計測値				備考
					長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	
9-10	8	1号溝下層	簪		8.8	4.5	0.2	3.1	

図版1



①調査区全景（南側から）



②1号溝A-A' ベルト土層断面（北側から）



③1号溝B-B' ベルト土層断面（北側から）



① 1号溝 C-C' ベルト土層断面 (北側から)



⑤ 1号溝 脊出土状況 up (北側から)



② 1号溝 染付皿出土状況 (南側から)



③ 1号溝 染付皿出土状況 up (南側から)



⑥ 1号溝 全景 (南側から)



④ 1号溝 脊出土状況 (北側から)



⑦ 5号溝 土層断面 (北側から)

図版3



① 2号溝A-A' ベルト土層断面 (北側から)



⑤ 2号溝遺物出土状況 up (西側から)



② 2号溝B-B' ベルト土層断面 (北側から)



⑥ 2号溝全景 (北側から)



③ 2号溝C-C' ベルト土層断面 (北側から)



④ 2号溝遺物出土状況 (西側から)



⑦ 3号溝A-A' ベルト土層断面 (南側から)



① 3号溝 B-B' ベルト土層断面 (北側から)



④ 4号溝 B-B' ベルト土層断面 (西側から)



② 3号溝全景 (南側から)



⑤ 4号溝全景 (東側から)



⑥ 1号土坑東西ベルト土層断面 (北側から)



③ 4号溝 A-A' ベルト土層断面 (東側から)



⑦ 1号土坑南北ベルト土層断面 (西側から)

図版5



① 1号土坑全景 (西側から)



⑤ 3号土坑全景 (北側から)



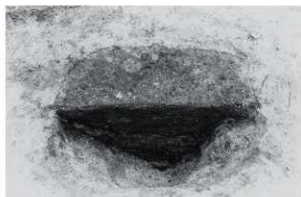
② 2号土坑土層断面 (南側から)



⑥ 4・5・6号土坑全景 (西側から)



③ 2号土坑全景 (北側から)



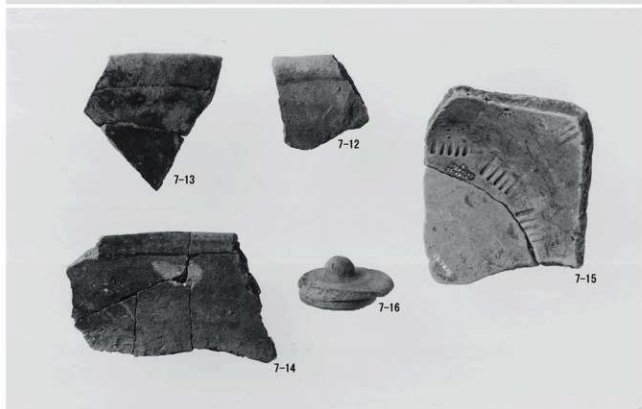
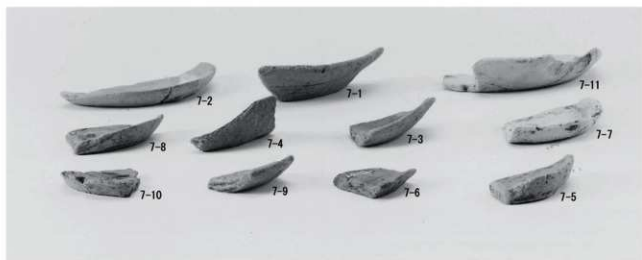
⑦ ビット土層断面 (南側から)



④ 3号土坑土層断面 (北側から)

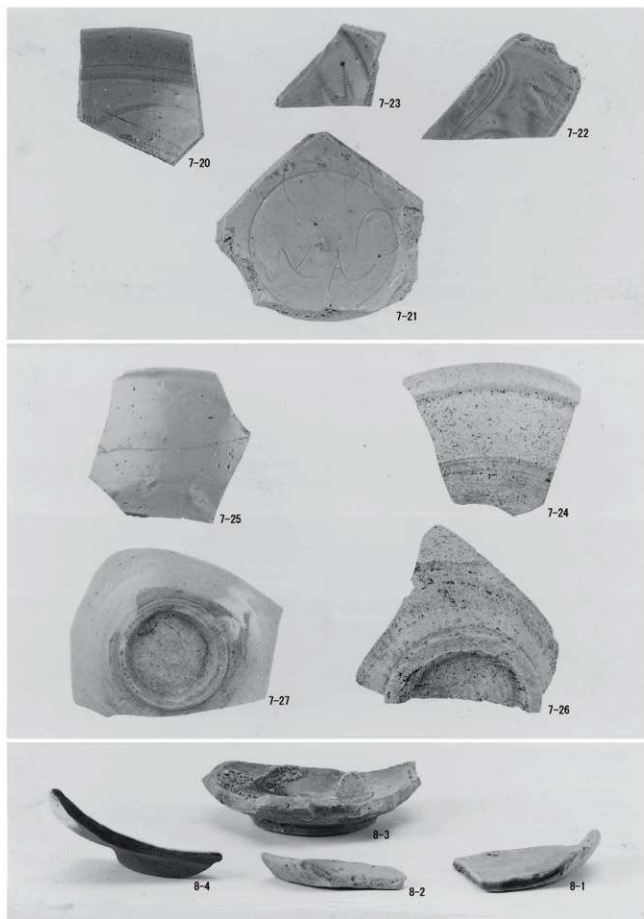


⑧ ビット全景 (南側から)



1号溝上層出土遺物

图版7

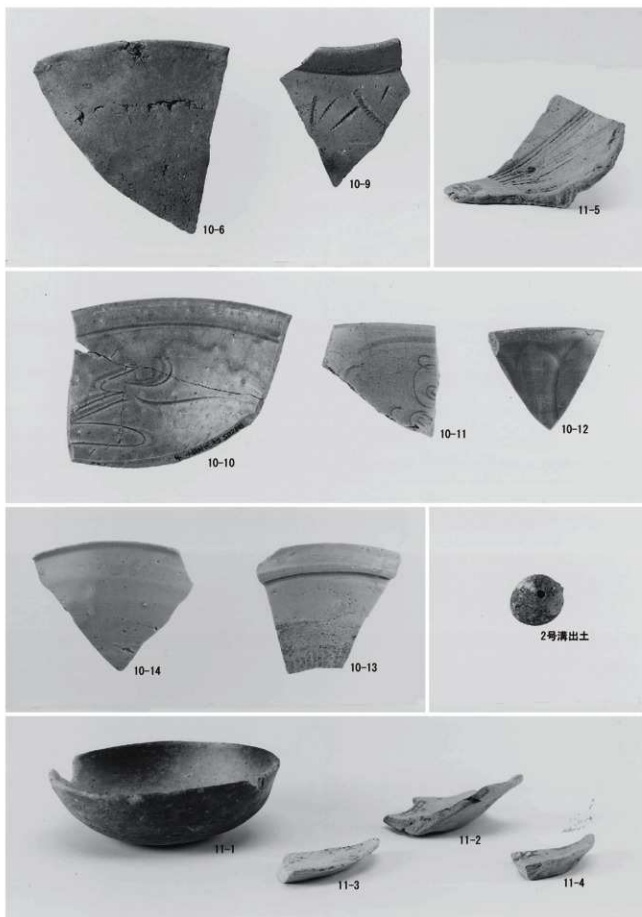


1号溝上層・下層出土遺物

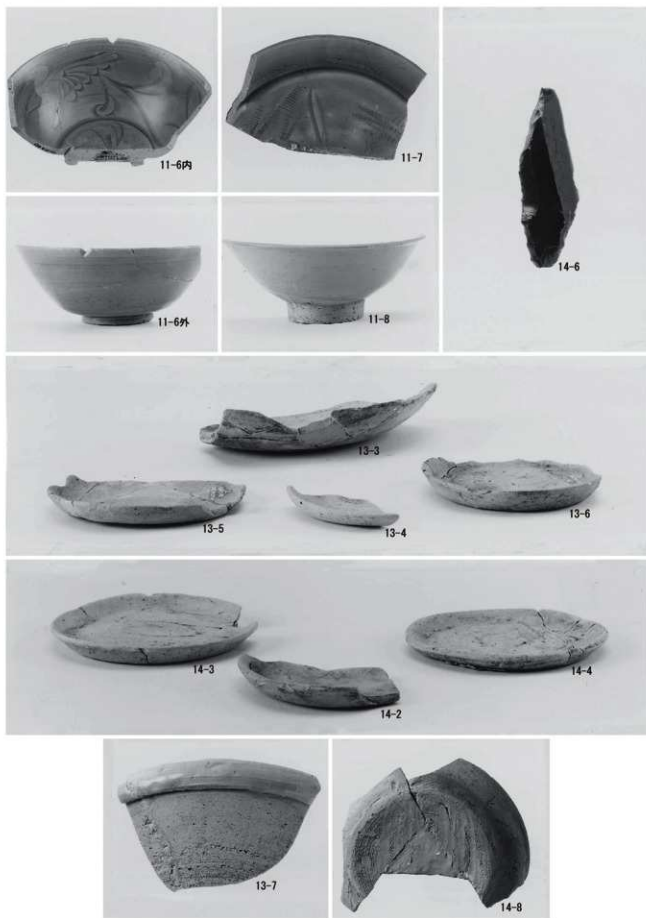


1号沟下层、2号沟出土遗物

図版9

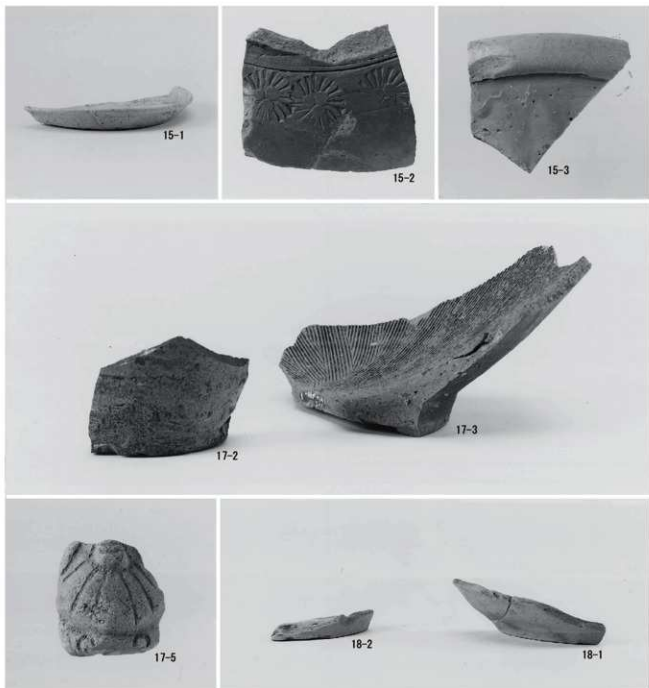


2号溝、2号溝B-B' ベルト周辺出土遺物



2号溝B-B' ベルト周辺、3・4号溝出土遺物

图版 11



5号溝、1・2号土坑出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	こいたいやしきいせき 3							
書名	小坂井屋敷遺跡 3							
副書名	福岡県小郡市小坂井所在遺跡の調査報告							
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第 2 6 4 集							
編著者名	西江 幸子							
編集機関	小郡市教育委員会							
所在位置	〒 838-0198 福岡県小郡市小郡 255-1 ℡ 0942-72-2111							
発行年月日	平成 24 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こいたいやしき 小坂井屋敷 いせき 遺跡 3	福岡県 小郡市 こいたいやしき 小坂井 字屋敷	40216		33° 23′ 48″	131° 26′ 15″	2010. 4. 8) 2010. 5. 14	54.7 m ²	個人住宅 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
小坂井屋敷 遺跡 3	集落	中世 近世 現代		溝 土坑 ピット		土師器 青磁 白磁 石器 土製品 青銅製品 陶磁器		
<p>中世と近世の区画溝と想定される大溝を 2 条確認した。これは、北側に隣接する小坂井屋敷遺跡 2 と同時期のものであることから、その関連性が考えられる。また、中国産陶磁器の出土率や区画溝の存在より、稲吉元矢次遺跡から広がる中世の集落の一端が、今回の調査で確認できたと考えられよう。</p>								

小坂井屋敷遺跡 3

小郡市埋蔵文化財調査報告書第 264 集

平成 24 年 3 月 31 日

発行 小郡市教育委員会
福岡県小郡市小郡 255-1

出版 片山印刷有限会社
福岡県小郡市祇園 1 丁目 8-15

